

# 新年のごあいさつ

2024

皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、以前の慣習に戻っていくものもあれば、一方で、デジタル化の進展やテレワーク、在宅勤務など、コロナ禍を契機として馴染んだものもあり、ウィズコロナへの変化を感じた1年でありました。

さて、当市の昨年の出来事を振り返ると、地域産業の発展を支えている姫川港が、開港から50年を迎えました。地方港湾の中で唯一のリサイクルポートに指定され、現在は、循環資源を広域に流動させるための拠点となっております。8月4日の記念式典では、帆船「日本丸」や、「ひめかわみなどマルシェ」などに大勢の方が訪れ、姫川港への理解をより深める機会になったと思っております。今後も、地域産業の安定と発展を図るため、SDGsの達成に資する姫川港の整備促進に努めて参ります。

また、昨年は、糸魚川が生んだ文人、相馬御風の生誕140年、童謡「春よ来い」発表から100年という節目の年でありました。これを記念し、企画展や講演会を開催したほか、市内小・中学校では、御風にちなんだ献立が給食で提供されるなど、幅広い世代が御風に親しんだ1年であったと感じております。今後も、御風を通じて、ふるさとの歴史文化の学びを深め、糸魚川への愛着や誇りの醸成へつなげて参ります。

地域医療については、昨年4月から市内における分娩の取扱いを休止しておりましたが、糸魚川総合病院および県と連携・協力して医師確保に取り組んだことにより、新たに産科医1名が着任され、11月から分娩の取扱いを再開いたしました。医師および看護師の不足に加え、本年4月から開始される医師の働き方改革への対応など、近年、地域医療を取り巻く環境は極めて厳しい状況が続いておりますが、引き続き、関係機関

と連携しながら市民の安全で安心できる医療体制の確保に向けて取り組んで参ります。

地域経済については、物価や燃料価格高騰の影響により依然として厳しい状況にあります。市としましては、地域経済の下支えとキャッシュレス化の推進を目指し、デジタル地域通貨「翠ペイ」の運用を本年2月1日から開始します。翠ペイ誕生記念として、最大15%トクするキャンペーンも実施しますので、皆様におかれましても、ぜひご利用いただき、地域内での買い物を通じて、地元消費促進にご協力をお願いいたします。

本年は、北陸新幹線糸魚川駅開業から9年となりますが、3月には、新たに金沢駅から敦賀駅までの間が開業予定であり、その先の大阪、関西方面へのさらなる延伸が進められています。

少子高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響など、様々な課題を抱えておりますが、北陸新幹線の延伸を一つの契機として、ジオパークやヒスイなどを最大限活かしながら、交流人口の拡大や地域経済の活性化につながるよう取り組んで参ります。

結びに、本年が皆様にとりまして、健やかで幸多き年となりますよう、心よりご祈念を申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

本年も何卒よろしく  
お願い申し上げます。

糸魚川市長

米田 徹

